

熊本地震から元気な九州へ

熊本地震の発生から半年が経ちました。

改めて、この震災によって、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、今なお避難生活を強いられている方々を初め、被災した皆様には心よりお見舞い申し上げます。

今回の震災では、多くの民家の倒壊・損壊、熊本県の観光のシンボルである熊本城、国際的な観光地である阿蘇地域を結ぶ幹線道路・鉄道が大規模な斜面崩壊で寸断されました。県民生活や観光産業は大きな影響を受け、今なお復旧途上にあります。

〔緊急復旧へ〕

九州地方整備局は、地震発生直後から一刻も早い被災地の復旧・復興に向け、被災市町村にリエゾンを派遣し情報収集を行うとともに、全国の整備局等の協力も得て、専門分野のプロフェッショナルで構成する TEC-FORCE を派遣するほか、協定締結の各団体による、昼夜を問わない献身的な活動もあり、道路啓開作業、河川堤防の緊急復旧、土砂災害箇所への点検など全力をあげて取り組みました。改めて、協定締結の各団体のご支援ご協力に厚く感謝いたします。

〔本格的な復旧へ〕

5月から本格的な復旧のステージへと移行しました。熊本県の要請を受け、直轄事業として阿蘇大橋地区の斜面安定化対策や、県道・村道の権限代行による復旧工事を進めています。また、来年の出水期前までに河川堤防の本復旧完了を公表し、計画的に整備を進めています。

〔元気な九州へ〕

今年3月、九州地域における今後10年間の国土づくりの指針となる「九州圏広域地方計画」が大臣決定されました。将来像として「日本の成長センター・ゲートウェイ九州」を掲げ、経済、観光、災害対応など交流・連携の強化を進めることが盛り込まれています。

熊本地震で観光産業など疲弊している中、元気な九州の実現に向け、当計画の「九州がひとつ」となった観光振興の促進やそれを支えるインフラの整備など、九州の更なる発展に向けた取組を進めてまいります。

また、熊本地震に加え、6月20日の豪雨災害、台風16号、阿蘇山噴火など災害が多発していますが、建設関連の皆様のご協力に感謝するとともに、今後とも災害対応について官民連携を強化し、九州地方の防災・減災に取り組んでまいります。

今後とも、九州地方整備局一丸となって、熊本地震の復興に全力で取り組んでまいります。その際、逆境をチャンスに変え、持てる魅力を最大限に引き出し、新しい可能性に挑戦していきたいと考えています。

平成28年10月14日

九州地方整備局長 小平田 浩司